

2020 年度事業 進捗報告書（実行団体）

- 提出日 : 2022年9月12日
- 事業名 : こうちコミュニティファンド（仮称）
- 資金分配団体 : 一般社団法人全国コミュニティ財団協会
- 実行団体 : 特定非営利活動法人 NPO 高知市民会議

① 実績値

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況 *
教育機関・金融機関・自治体とともに寄付文化の増進に寄与するための寄付メニュー（基金）が充実拡大をしている。	1 HP で資金循環機能が強化されているか。	1 こうちコミュニティファンド（仮称）のウェブサイトが完成している	2024 年 3 月末	1. ウェブサイトは完成している。 2. 5つの寄付メニューを設置している。	2
	2 寄付メニュー（基金）が充実拡大されているか。	2 寄付メニュー（基金）:5 個			
災害が起きた時にすぐに基金が立ち上げられる体制を作る。	1 発災時に基金をすぐに立ち上げられる体制ができているか。	1 地域防災組織にすぐにコンタクトがとれる状態にあり、基金立ち上げまでの流れが確認できている。	2024 年 3 月末	先進団体（みんなでつくる財団おかやま）に視察に行くなど、情報収集を実施した。	2
チャレンジを応援する助成コースが用意されている。	1 チャレンジを応援する助成コースが用意されているか。	1 用意されている。	2024 年 3 月末	事業指定助成プログラムを作成。	1

高知県内で活動している人同士が交流会する機会が生まれている。	1 交流の回数	1 10回	2024年 3月末	チャリティーイベントとシンポジウムを開催した。	2
--------------------------------	---------	-------	--------------	-------------------------	---

*進捗状況：1 計画より進んでいる、2 計画どおり進んでいる、3 計画より遅れている、4 その他

② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
2.概ね達成の見込み
2.アウトカムの状況
A：変更項目 <input checked="" type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの内容 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの表現 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの指標 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値
5.新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点
チャリティーイベントやシンポジウムの参加人数は会場の定員の半分と設定した。

③ 広報（※任意）

- 1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）
高知新聞
- 2.広報制作物等
チャリティーイベントチラシ

シンポジウムチラシ
3. 報告書等

2020 年度事業 中間評価報告書（実行団体）

評価実施体制

内部／外部	評価担当分野	氏名	団体・役職
内部	寄付メニュー	川竹大輔	NPO 高知市民会議 副理事長
内部	災害に関する基金	岡田一水	NPO 高知市民会議 副理事長
内部	事業指定助成プログラム	井上将太	NPO 高知市民会議 理事
内部	交流会	田畑勇太	NPO 高知市民会議 事務局

A) 事業のアウトカムの進捗状況の評価

① 短期アウトカムの進捗状況

アウトカムで捉える変化の主体	指標	目標値	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
高知県民・高知県内の起業	1 こうちコミュニティファンド(仮称)の助成金額	1 計 2000 万円	2024 年 3 月末	こうちコロナ基金や9月から始まった基金に対して、個人からの寄付が集まっている。また企業からの冠基金も始まり、県内の企業との連携も始まっている。
高知県内の市民活動団体	1 こうちコミュニティファンド(仮称)が行ったチャレンジを前提とした助成件数	1 年 10 件	2024 年 3 月末	事業指定助成プログラムを運営することにより、様々なチャレンジを行う組織から申請がきている。こと動きを更に発展させていきたい。
高知県民	1 交流会の参加者数	1 年間 100 人	2024 年 3 月末	シンポジウムでは 89 名の方に参加頂き、チャリティーイベントには 28 名の方に参加頂いた。今後はもう少し小さい勉強会を実施していきたい。

県内の NPO 法人	1 県内 NPO 法人からの 認知度	1 80%	2024 年 3 月末	シンポジウムで県内の NPO 関係者に参加いただいた。またメディアにもとりあげられた。
------------	-----------------------	-------	----------------	---



② アウトカムの分析「⑧アウトカムの達成度」(※任意)

評価小項目	評価小項目の評価結果	評価結果の考察
社会的事業・活動を行う団体が使用できる資金が増えているか。	少しずつではあるが、増えている。	事業指定助成プログラムなどでも寄付が集まっており、新しいことに使える資金が増えている。
社会的事業・活動を行う団体がチャレンジしやすくなっているか。	少しずつではあるが、しやすくなっている。	事業指定助成プログラムによって、チャレンジする際の資金集めをすることができるようになっている。
高知県内で活動している人同士のコミュニティが生まれているか。	まだコミュニティは生まれていない。	シンポジウムのワークショップの参加者が想定より大幅に多かった。半分以上は参加していた。今後もこのような場を提供し、コミュニティを作っていきたい。
県内 NPO 法人がコミュニティファン드를認知しているか。	認知度はあがってきている。	HP も完成し、新聞でもとりあげられた。シンポジウムでも県内の NPO 関係者に参加していただいた。



事業のアウトカムの進捗評価	評価結果の考察
<p>事業のアウトカムの進捗の程度は、事業終了時には</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値を上回っての達成の見込みがある</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成の見込みがある</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できる見込みがある</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は不透明である</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は難しい</p> <p>と自己評価する</p>	<p>全体的には短期アウトカムを達成できる状況にある。しかし、コミュニティを作っていく部分がまだ進んでいない。今後は特にコミュニティを意識しながら活動を進めていきたい。</p>

B) 事業の改善状況の評価

① 事業の実施過程・事業改善に関する評価

評価項目	評価小項目	評価結果	考察
実施状況の適切性	メンバー内（事務局、理事）で目的共有が十分に行われているか。	行われている。	毎週のオンラインミーティングに加え、月に一回の運営委員会を実施している。またデジタルツール（Slack）を利用し、常に情報交換を行っている。
実施状況の適切性	多くの人を巻き込んでいるか。（困った時に助けを求められる人がいるか）	巻き込んでいる。	寄付者や、寄付受取団体はもちろんのこと、シンポジウムやチャリティーイベントの運営、またデザインの相談がすぐにできる状態にある。
実施状況の適切性	寄付メニュー（基金）のテーマ選定のための話し合いが進んでいるか。	進んでいるが十分ではない。	災害や、子どものための基金については話し合いが進んでいるが、それ以外はまだ進んでいない。今後他のテーマでも話し合いを進めていきたい。
実施をとおした活動の改善、知見の共有	こうちコロナ基金の試行からコミュニティファンド運営の知見が得られているか。	得られている。	思ったより、各団体の寄付を集める力がないことがわかった。またジャンルによって集まりやすい分野と集まりにくい分野があることがわかった。
組織基盤の強化・環境整備	事業を行える体制を整えているか。	整えられている。	9月からは新しい人も雇用することができた、また NPO 高知市民会議内でも協力体制ができてきている。

② 短期アウトカムの状態の変化・改善に貢献した要因や事例

シンポジウムやチャリティーイベント、または HP 作成など目に見える形の成果が生まれ、NPO 高知市民会議内外で関わってくれる人が増えてきている。

事業指定助成プログラムを運営することで、申請団体との関係が生まれ県内のリアルな課題が見えてきている。

こうちコロナ基金を行ったことで、寄付集めの難しさを実感したと同時に寄付の特徴を知ることができ、次の動きを試行することができた。

③ 事前評価時には想定していなかった成果

早いタイミングでこうちコロナ基金を設置したことで、そこで得られた経験を生かしながら、事業指定助成プログラムやテーマ型基金などを作成することができた。



事業計画の改善の必要性の確認

- 社会課題のニーズに事業計画の内容は合致している
- 受益者や事業対象グループのニーズに事業計画の内容は合致している
- 事業計画に記載している活動は、アウトプット⇒アウトカムへのつながりが実際に確認できている
- 残りの期間の資金配分・人員体制・スケジュールは活動を円滑に行えるよう計画されている
- 短期アウトカム指標は、事後評価時に測定し、達成度を評価することが可能な内容になっている



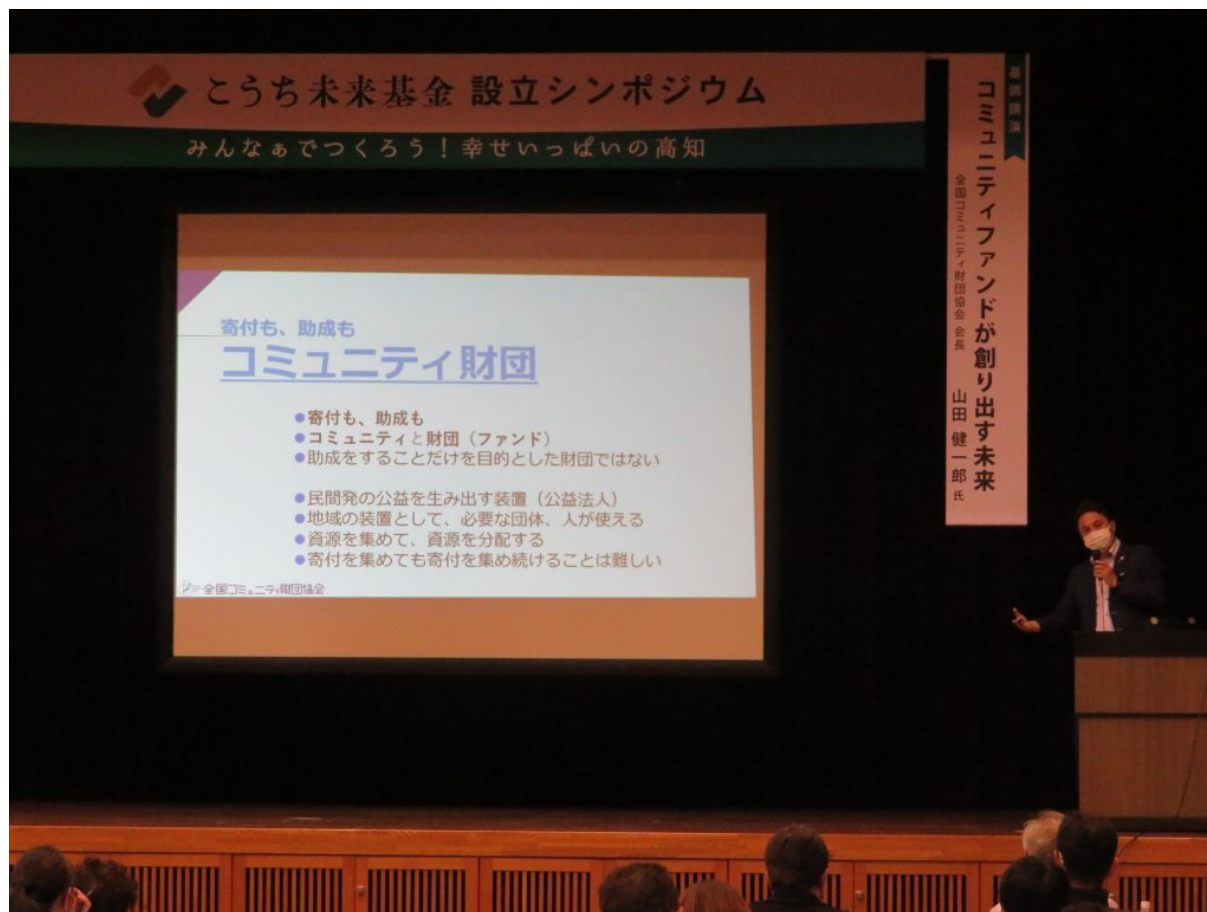
事業の改善状況の評価結果	評価結果の考察
<p>残りの事業期間で、事業が短期アウトカムを達成するために</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 事業計画は適切に改善されたといえる <input checked="" type="checkbox"/> 事業計画を適切に改善する見込みがある <input type="checkbox"/> 事業計画の改善について、課題が残っている <p>と自己評価する</p>	<p>新しい試みを多数行っているが、助成金額 2000 万円の達成には程遠い状態である。もし今年度内に道筋がたてられない場合は事業計画を適切に改善する必要があると考えられる。ただ現在はまだ試行錯誤の途中であり、助成金額 2000 万円という一つの短期アウトカムを目指しながら努力していきたい。</p> <p>災害に関する基金の作成に対してのアプローチが十分ではないので、今年度中には短期アウトカムが達成できる目処がたつように活動していきたい。</p>

④ 中間評価結果を踏まえて今後注力したいまたは早急に取り組みたい事項をお聞かせください。

NPO 高知市民会議内の関わる人の再考と、外部のコミュニティの作成は早急にやっていきたい。
また HP ができ寄付メニューができつつあるので、県内の法人にもしっかりとアピールしていきたい。

添付資料

活動の写真（画像データは1枚2MG以下、3～4枚程度）



こうち未来基金設立シンポジウム



こうち未来基金設立シンポジウム